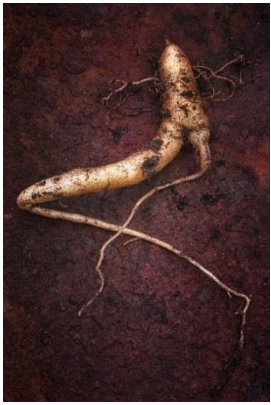


	ら始まる物語ですが、その中でジュリエットが意に染まぬ結婚から逃れるために、死を偽装するシーンがあります。結果的に、これが悲劇的な結末への引き金を引くこととなりますが、さてジュリエットに仮死状態をもたらした眠り薬が、上記のもの。薬草や毒草に詳しい僧（修道士）ロレンスから手に入れたものです。この眠り薬に用いられた毒草が、今回ご紹介するマンドレイク（マンドラゴラ）です。 マンドレイクはナス科の多年草。ペラドンナなど、ナス科の仲間には悪名高い毒草が数種類ありますが、マンドレイクの毒性はそれらに比べて特別高いわけではありません。しかしながら、マンドレイクは、この植物にしかない伝承に彩られた毒草であり、古くからさまざまな物語に多く登場します。この伝承の中のマンドレイクのほうが有名になってしまったため、創作上の毒草と思われることもあります。実際に存在する植物です。
	Abbildung der Mandragora, via Wikimedia Commons. 薄紫色の釣鐘状の花を咲かせ、トマトに似た弱い毒のある実をつけるマンドレイクですが、この植物の真髄は、何といっても根にあります。マンドレイクの根は、細根が複雑に絡み合った形をしていて、しばしば人の姿に見立てられてきました。マンドレイクには性別もあり、咲く時期や色により、男女が分かるとされていたそうです。
	マンドレイクの根。二股に分かれた形が人の姿に見立てられた。Photo/vainillaychile/Shutterstock.com 伝承に登場するマンドレイクは、引き抜く際に叫び声をあげるとされ、この声を聞いたものは錯乱する、または絶命するといわれています。しかしながら、マンドレイクは錬金術や呪術にも使われ、媚薬や不老不死の薬の原料となる高価な薬草であるとされていたため、この根はとても価値の高いものでした。そこで、自分によくなつた犬をマンドレイクにつなぎ、遠くから呼び寄せることでマンドレイクを掘り出すという方法をとっていました。犬はマンドレイクの悲鳴で命を落としますが、その犠牲で根を手に入れることができるというわけです。前述の『ロミオとジュリエット』でも、ジュリエットが語る墓地の描写に、マンドレイクの叫び声が登場します。また、最近では『ハリー・ポッター』シリーズでも、ホグワーツ魔法学校の授業の中で、薬草の一つとして叫ぶマンドレイクが取り扱われる描写がありました。実際のマンドレイクはもちろん叫ぶことはありませんが、細根が絡み合っているため、引き抜く際はこの根がちぎれて音が鳴るといいます。